

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童多機能型事業所 そらのいろ		公表日		令和 7 年 2 月 5 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		活動に応じて児童が利用するスペースを設けている。	法令に基づき対応していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		必要に応じて職員を増やし調整している。	法令に基づき対応していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		戸外遊びをする際に、地面が砂利のため転倒しやすい。環境整備を見直し戸外遊びの内容を工夫している。	状況を見ながら都度環境改善に努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日の掃除、換気、玩具の消毒等をしている。	今後も清潔が保てるように努める。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		その時の子どもの様子に合わせて個室が使えるように環境を整えている。	今後も子どもの様子に合わせて個室を使うように努める。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	2	毎朝のミーティングをして振り返り改善点を話し合っているが、職員の個人的な目標を立てたり振り返りをしたりはしていない。	今後は職員の個別目標を立て、子どもや保護者にとってよりよい施設となるように努力していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		必要に応じて話し合いをする機会を設けている	今後もスムーズに対応できる体制を整えるように努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎朝のミーティングで課題や問題を共有し業務改善を行っている。	今後も、どの職員も発言や意見が出しやすい環境を作り、業務改善を継続していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	現在のところ第三者による外部評価は実施していない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		定期的に社内研修や外部研修に参加している。	今後も継続して資質向上のための研修に参加していく。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		個々に合わせた支援計画を作成している。	法令に基づき対応していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。	6		計画期間ごとに職員と情報共有し合い、利用児や保護者の意向を取り入れた支援計画を作成するように心がけている。	今後もアセスメントを適切に行いながら支援計画を作成していく。
	13	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		子どもたちの様子を日々共有し、課題に向けた支援方法をチームで検討している。	今後も職員同士で情報を共有し、利用児の最善の利益を考慮した検討を行っていく。
	14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		計画は職員と共有し、見直しを話し合った上で計画支援を立てている。	今後も振り返りをしながら計画をたて、より良いサービスの提供に努める。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		課題が表出された時は職員会議や外部との情報共有を行っている。	今後もスムーズに対応できる体制を整えていく。
	16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で具体的な支援内容が設定されているか。	6		定期的に利用児に関わる機関との情報共有を行ったうえで、本人や保護者にニーズに合わせた個別支援計画を作成している。	今後も「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」を意識しながら具体的な支援内容を設定するように努める。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		常に職員とともに、利用児の様子に応じて活動プログラムを検討しながら立案している。	今後もチームで立案していく。

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		毎月の集団レクリエーションを行い、様々な経験を通して自信がもてるように支援している。	今後も子どもたちが楽しめるような活動を提供できるように工夫していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	6		どの利用児も参加できるよう、状況に応じて無理なくスモールステップを踏み、個別活動と集団活動の参加を促している。	今後も利用児の様子や状態を把握しながら、みんなが無理なく参加できる活動を増やしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎朝ミーティングを行い、注意事項や留意点を話し合っている。	今後も職員にとっても利用児にとっても負担が大きくなならない様に対応していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援終了後にはその日の子どもの様子を担当した職員が記録を行っている。また翌朝のミーティングで振り返りを行っている。	今後も話し合いの時間を設け、職員間で情報を共有できるようにする。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日々の支援後に経過記録を残し、それを元に定期的にカンファレンスを実施している。	今後も継続していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		利用児・保護者に対して適宜モニタリングを行い、必要に応じて見直しを行っている。	今後も利用児や保護者の思いや悩みに気付けるようにしていき、適切な見直しを行えるように努める。
	24	【放デイのみ】放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	6		利用児が自分の意思で活動できるようにしつつ、職員間でアイデアを出し合いながら日々の活動プログラムを立案するようにしている。	難しいと決めつけずに、今後も職員で協力し合いながらより良い活動を子どもたちと共有できるようにしていく。
関係機関や保護者との連携	25	【放デイのみ】こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		それぞれの子どもの発達に合わせて選択したり、自分で意志を示したりすることができるよう工夫している。（絵カードやこども会議）	今後もそれぞれの子どもに合わせて本人の意思決定を尊重していく。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者や頻繁に支援に入っている職員が参画している。	今後も継続していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		必要に応じてスムーズに他機関と連携が取れるように体制を整えている。	今後も継続していく。
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	1	専門知識においては必要に応じて外部にも相談している。	今後も継続していく。
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	4	地域の祭りに参加し、地元の子どもたちと一緒に楽しんだ。	今後は地域での集いなどで当施設が主催する出し物などで参加し、交流できるようにしていきたい。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		自宅へお送りした際に伝達事項を行ったり、希望がある場合や詳しく様子を話したい場合は時間を作って面談をしている。	今後も継続していく。
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	自立支援協議会などの案内はしているが、どのような集まりかイメージしにくい様子。	今後も保護者が参加できる研修があれば声をかけ、参加しやすい声掛けをしていく。
	32	【児発事業所・児発センターのみ】併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚園）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		希望はないが情報共有はできる体制は整えている。	
	33	【児発事業所・児発センターのみ】就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		対象者なし 必要時に応じて情報共有を図る体制を整えている。	今後も必要に応じて情報共有などを行っている。
	34	【児発センターのみ】地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	35	【児発センターのみ】質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	36	【児発センターのみ】（自立支援）協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	37	【放デイのみ】学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		実施している。	今後も引き続き取り組んでいく。

	38	【放デイのみ】 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	2	個人情報に留意しサポートファイルを参考にしている。 今後連携を深めていきたい。	今後は必要であれば外部機関とも情報共有していく。
	39	【放デイのみ】 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1	対象者なし	
	40	【放デイのみ】 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		参加している。	今後は職員の勤務体制をみて、どの職員も参加できるよう声をかけていく。
保 護 者 へ の 説 明 等	41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に丁寧な説明を心掛けて行っている。	今後も継続していく。
	42	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		子ども及び、保護者の意思を尊重した支援計画を作成している。	今後も継続していく。
	43	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		計画を立案し、保護者に交付する際には説明を行った上で同意を得ている。	今後も継続していく。
	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		保護者の要望や、利用児の状況に応じて時間を確保して個別で面談を行っている。	今後も継続していく。
	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	現在は行っていない。	今後は保護者が参加できる行事などを計画して交流できる場を設けていきたい。
	46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		迅速に対応するよう心掛けている。	今後も継続していく。
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月の様子がわかるように写真付きの広報を配布している。またSNSも活用している。	今後も個人情報の取り扱いに注意しながら継続していく。
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		留意している。	今後も継続していく。
	49	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		その子に合わせたツールを用いて行っている。どうしても難しい場合は保護者と話し合いをし、配慮するようにしている。	今後も継続していく。
	50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	長期休暇には地域で活躍されているボランティアの方をお願いをし、一緒に活動する機会を設けている。	今後も継続していく。
非 常 時 等 の 対 応	51	【放デイのみ】 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		行っている。自宅にお送りした時のみでは時間が足りないようであれば、時間を確保し面談を行っている。	今後も継続していく。
	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		実施はしているが、まだ周知してもらえていないこともある。周知してもらうために広報で写真付きで知らせている。	今後も継続していく。
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		避難訓練は様々な状況を想定して行っている。子どもたちとも意見を出し合いどのように避難するかも確認している。	今後も継続していく。
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		何か状況に異変を感じたら連絡をとるようにしている。	今後も保護者に確認しながらこどもの様子をみていく。
	55	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	医師の指示があるかどうか保護者に確認をしている。	何が食べられないのか保護者に確認し、長期休暇のクッキングなど慎重に行っていく。
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全管理を行いながら支援を行っている。また長期休暇などで外部の方たちを招き、子どもたちにも安全意識がもてるよう工夫している。	今後も継続していく。
	57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2	まだ、知ってもらえていないこともある。	今後広報を活用してわかりやすく知らせたい。

	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		インシデント・アクシデント報告書を記入し再発防止を心掛けている。	今後も報告書の作成を徹底していき、資質向上を目指していきたい。
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		職員研修を行って意見交換をする場を設けている。	今後も継続して行っていく。
	60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	1	普段、何気なく安全のために子どもの動きを止めていることもある。その際は保護者には連絡している。	今後も研修を都度行い、職員の行動の振り返りをしていく。